

## 制限表面 (Obstacle Limitation Surfaces)

航空機が飛行場に安全に離陸・着陸できるよう、飛行場周辺に設けられた空間の底面をいう。この制限表面には、進入表面 (Approach Surface)、水平表面 (Horizontal Surface)、転移表面 (Translational Surface) などがあり、これからは飛行場の種類・着陸帯が計器着陸装置か否かによって、その範囲は異なる。なお、標準海面より飛行場の代表点までの高さを飛行場標高 (Aerodrome Elevation) という。

○進入表面: 着陸帯の短辺に接続し、かつ、水平面に対し上方へ25分の1の勾配を有する平面であって、その投影面が進入区域と一致するもの。(航空法第2条第8項)

進入区域とは、着陸帯の短辺の両端及びこれと同じ側における着陸対の中心線の延長3,000mの点において中心線をなす一直線上におけるこの点からの375mの距離

○転移表面: 進入表面の斜辺を含む平面及び着陸帯の長辺を含む平面であって、水平面に対する勾配が進入表面又は着陸対の外側上方へ7分の1の平面でその末端が水平表面との接線になる部分。(航空法第2条第10項)

○水平表面: 空港の評点の垂直上方45mの点を含む水平面のうち、この点を中心として半径1,500mで描いた円周で囲まれた部分。(航空法第2条第9項)

